

方言テキストの目的、対象、構成、使い方

島本 智美

1. 目的

このテキストは、熊本市内に住む中級レベル以上の日本語力を有する外国人留学生が、勉学のためよりも生活の基盤を築くために必要な熊本方言を身につけるためのものである。「さしより熊本弁」というタイトルが示すとおり、「さしより（さしあたり、とりあえず）」これだけ知っておけば、熊本方言らしく聞こえるだろうという表現や文型、言い方をまとめた。

大学の講義では方言は使わなくても、アルバイト先、ホームステイ先の日本人、クラスメイトとの会話には方言があふれている。地域で生活する日本語学習者にとって地域語である方言の獲得は、豊かな人間関係や、円滑なコミュニケーションにとって意味のあるものである。しかし、その方言習得のために多大な労力をかけるのでは本末転倒である。本教材では、必要と思われる場面、好まれるであろう表現、文型を厳選し、既習の共通語の上にもう少し勉強すれば方言に聞こえるようになることを目指した。

取り上げた方言要素は、熊本方言話者の会話データから抽出したものや、教材作成者（熊本方言話者）の内省から使用頻度が高いと思われるものを選んだ。熊本方言といっても各地域によって大きく異なるため、熊本市で使われる方言に限定し、方言の世代差についても、大学生の使用を念頭において選定した。この教材では完璧な熊本方言話者の育成を目指しているのではなく、文末などに特徴的に現れる熊本方言の要素を学ぶことで周囲の熊本方言を理解し、自分でも少し使うことで共同体意識や親密感を感じられればよいというレベルのものである。したがって、熊本方言の体系を全て紹介しているわけではなく、学びやすいものに絞っている。例えば辞書形が「る」で終わる動詞が疑問文を作る熊本方言の終助詞「と」に接続する際「る」は促音化することが多いが、「る」を使っても不自然ではない。

1) 明日来ると？（明日来るの？）

2) 明日来っと？

本教材ではこの終助詞「と」の使い方としては、「普通体＋と」と示すにとどめ、促音化については触れていない。

2. 対象

対象は熊本に住む中級レベル以上の日本語力を有する外国人留学生である。

3. 教材の構成

本教材では「質問する」「ことわる」といった機能ごとに7つの項目を立て、そこで使われる方言の形式を紹介している。スピーチレベルは友人に話す際のカジュアルフォームと先輩やアルバイト先の店長などに対して使う親しみのある丁寧体の両方を取り上げている。改まった場面では方言を使わないため、このような場面は設定していない。使い方が難しいと思われる方言要素についてはコラムで説明を加えた。第1課のコラムは「熊本方言の秘訣」とし、助詞「を」が熊本方言では「ば」になること、形容詞のカ語尾、音声的特徴など、熊本方言の特徴について簡単に紹介している。また、熊本方言の動詞の活用を「活用一覧」として巻末に付けた。

教科書全体の構成を次に示す。

- 「はじめに」
- 「本書の記号・用語について」 ●「(イラストの) 主な登場人物紹介」 ●「目次」

第1課 質問する

- 1) わからないことばを質問する：シューカツてなん？
- 2) 漢字の読み方を質問する：何て読むと？
- 3) やり方を質問する：どぎゃんして食べると？

◆コラム：熊本方言の秘訣

第2課 課誘う・断る

- 1) 誘う：いっしょに行かん？
- 2) 断る：バイトに行かなんけん

◆コラム：「よる」と「とる」

第3課 確認する：試験は水曜日で終わるとだろ？

◆コラム：熊本方言の敬語

第4課 伝える

- 1) 親しい人に伝える：先に行ってて
- 2) 目上の人に伝える：来られんでです

◆コラム：「けん」

第5課 説明する

- 1) 手順を説明する：てから、このボタンば押せばよかよ
- 2) 理由を説明する：データが大きくてから、送れんかったったい

◆コラム：「たい」

第6課 許可をもらう・依頼する

- 1) 親しい人に許可をもらう：食ってよか？
- 2) 先生や先輩、上司や知らない人に許可をもらう：先に帰らせてもらってもよかですか
- 3) 依頼：見せてもらってもよか？

◆コラム：「よか」

第7課 考えを言う

- 1) アドバイス：バスで行った方がよかよ
- 2) 考えを言う：高かとじゃなか？
- 3) なぐさめる：しょんなかよ

◆コラム：熊本の地名

- 熊本方言の動詞活用一覧
- 活用形の使い方
- 索引
- スクリプト

各課の構成はまず導入を目的とした会話例を4コママンガで示し、次に聴解タスクで方言要素を確認する。さらにこの方言要素の使い方を示し、代入練習などの問題も付けている。これを1まとまりから3まとまりで一つの課を構成した。会話、聴解、練習問題はすべて録音しホームページからダウンロードできるようにしている。

使い方

本教材は基本的にはクラスで熊本方言話者の先生が教えることを前提として作成したが、コラムや音声教材を活用した自習も可能である。

まず、4コママンガで示された会話例を見て、「誘う」「依頼する」等がどのように表現されているかを確認する。次に聴解練習で、学習項目である表現を聞き取る。この聴解練習は、聞き取りの後、会話練習に使うことができる。表現、使い方を先に確認してもよい。最後に、代入練習、変換練習を行う。すべてに音声教材が対応しているので、必ず音声の確認を行うことが注意点としてあげられる。

本教材を使用される際には、ぜひ、本報告書の「方言教材作成に際しての諸問題」を合わせて参考にされたい。

応用練習

各課では、以下のような応用練習が可能である。

1 課 質問する

〈応用編 1〉

「やり方を教える」表現

A: 景福宮 (キョンボックン) って どぎゃんして行くと？

- 1) 万里の長城
- 2) マチュピチュ
- 3) セブ島

B: 地下鉄の3号線に乗って、景福宮駅で降りると よかよ。

A: ふ～ん、ありがとう。

〈応用編 2〉

熊本特有のものについての応答練習

Q: ねえ、いきなり団子て なん？

田楽

馬刺し…

3 課 確認する

(ロールプレイ)

- ①友だちがローソンでアルバイトを始めたようです。本当にアルバイトを始めたのか、アルバイト先はローソンだったか確認してみましょう。
- ②アルバイト先の先輩が、来週一週間アルバイトを休むようです。本当に来週アルバイトに来られないのか、1週間ずっと来られないのか確認してみましょう。

5 課 説明する

(ロールプレイ)

- ①友だちが駅の様子がわからないので、あなたに聞きました。あなたはその場所がわかります。説明しましょう。
- ②先輩が拡大コピーをしようとしています。やり方がよくわからないので、あなたに聞きました。説明しましょう。

4 課 伝える

(ロールプレイ)

A：あなたは先生です。

授業を始めようと思いますが学生のリュウさんが来ていません。

クラスの学生にリュウさんのことを聞いてください。

B：あなたは学生です。

あなたのクラスメイトのリュウさんが病院へ行くので、授業に少し遅れると言っていました。

6 課 許可をもらう・依頼する

<友達に頼みましょう>

- ①窓が開いているので寒いです。窓のそばに友達がいます。
- ②部屋が暗いです。電気のスイッチのそばに友達がいます。
- ③はがきが必要です。ちょうど友達が郵便局へ行くと言っています。

(ロールプレイ)

A：あなたは来月、ゼミの発表をすることになっていますが、あなたの次に発表する予定の友達と順番をかわってほしいと思っています。理由を考えて頼んでください。

B：あなたの友達がゼミの発表の順番をかわってほしいと頼みます。あなたは理由を聞いて順番をかわるかどうかが決めてください。